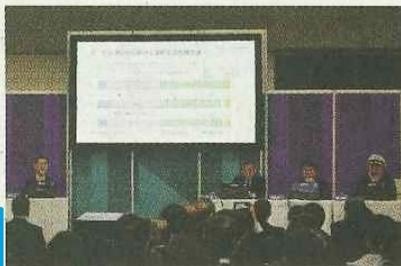


SECURITY SHOW 2026

12のテーマで セミナーを開催



セルフレジのアンケート結果を報告したJEASのセミナー

「SECURITY SHOW 2026」が東京ビッグサイト（東京都江東区）で3月3日～6日に開かれ、展示会場内で12テーマのセミナーが開催された。日本万引防止システム協会（JEAS・稲本義範会

長）は3日、「省人化店舗・セルフレジへの進化 セルフレジ意識調査報告書公開」と題したセミナーを行った。近江元副会長は全国の一般消費者約3000人を対象に行ったアンケート調査の結果を報告。それによると消費者の89%が精算

を効率化するセルフレジを受け入れているが、5.5%が「セルフレジの不正を目撃した」、13.5%が「操作を誤って未精算の商品を持ち帰ったことがある」と回答した。登壇したパネリスト3人は「店舗の無人化・省力化」「店舗の防犯カメラシステム」「RFID（ICタグによる商品管理）の店舗での活用実績」のテーマで、各社の製品や取り組み事例を紹介した。

友田彰夫副会長は「サイバー犯罪の現状と対策」について説明。パソコンで重要なシステムエラーがあったときに表示されるブルースクリーン（青い背景のエラー画面）の偽物からマルウェア（不正ソフトウェア）に感染させる最新の手法を紹介。対策を説明して注意を呼び掛けた。

山田康雄理事はデータを暗号化し身代金を要求する「ランサムウェア被害の対策」を解説。「サイバー空間だけでなく物理空間の保護が必要」と強調した。

総合防犯士会

定時会員総会を開く

総合防犯士会（ASES・齊藤賞一会長）は3月4日、東京ビッグサイト（東京都江東区）会議棟内で「第6回定時会員総会」を開催した。

齊藤会長は「総合防犯士会の会員を増やすため、地域の防犯設備協会と新たな取り組みを推進していきたい」と述べて協力を求めた。



齊藤会長

来賓の日本防犯設備協会（春山正樹会長）・廣田耕一代表理事は「当協会が認定する上位資格・総合防犯設備士は539人となりましたが資格取得希望者は減少傾向にある。総合防犯設備士に一層活躍していただき資格取得者の増加につなげてください」と述べた。

総合防犯士会は、総合防犯設備士の有志で構成する会員数127人の全国組織。防犯設備士の連携や情報交換を促進し社会の安全・安心に貢献する目的で2009年に設立された。

研修会で情報共有

「サイバー対策」学ぶ

茨城防犯設備協会
茨城県防犯設備協会（佐藤平八郎会長）は2月20日、水戸市内で研修会を行った。

同研修会は、最新の犯罪動向や防犯技術などの情報



サイバー攻撃の対策を学ぶ
（茨城県防犯設備協会提供）

収集、会員相互の情報共有・ネットワーク強化などを目的として開催。今回は2部制で行った。第1部は茨城県警生活安全部サイバー企画課担当官が講師を務め、「サイバー攻撃の現状と対策」をテーマに講話した。第2部は高千穂交易（東京都新宿区、井出尊信社長）・蓮沼佑亮氏が講師となり「ランサムウェア対策プラットフォーム『Halcyon（ハルシオン）』で築くEDR（端末の継続的な監視）の限界を超える防衛戦略」の演題で解説した。

参加者からは「今まで知らなかったランサムウェアの知識を学ぶことができました」などの声があった。